

●イノシシが炭焼き窯周辺の空き地に出現しました。

【小川芳也さんからの報告】2024年2月10日（土）

里山農園には、大村さん、森島さん、播川さん、金田さん、太田さん、小川が集合しました。ジャガイモの植え付け準備を大村さん、玉切りされた木材を巻き割り機で更に運びやすい大きさへの加工を太田さん、木材の運搬を森島さんと小川、朝市のための収穫を金田さん、記録撮影やその他全般を播川さんとそれぞれが出来ることを頑張って実施しました。また、金田さんと太田さんはヤマトサンショウウオの生息確認他、森島さんと小川は炭焼き窯周辺の草刈りも併せて実施しました。



炭焼き窯周辺で草刈りを行っていたときのことで、太田さん・金田さんが駆けつけてくれたと思ったその時!!! 炭焼き窯から15mくらい離れたところに猪を金田さんが見つけられました。その場にいた4人が猪と10mくらいのところで観察をしていたのですが、猪は気にすることなく時々こちらを見るくらいで、餌を探しているようでした。

森島さん・太田さんが8mよりも近づくと猪もその場を離れ山の方へゆっくりと逃げていきました。時間にして20分間くらいの出来事でした。里山農園でも昼間に猪は見たことがないな〜と森島さんが仰っておられたので、とても珍しいことだったようです。竹の棒で向かってきたら懲らしめてやろ



う!と構えていましたが、襲ってこなくてほっとしました。大きさや毛の雰囲気からして大人になりかけたくらいではないかということでしたが、人間を恐れることなく昼間に堂々と現れたことにとてもびっくりしました。

●ヤマトサンショウウオの卵囊続いて発見 上の池にも、下の池にも産み付けられる

2月10日の点検で今年初めて上の池に1対産み付けられているのが見つかりました。また下の池には5対がカイズカイブキにありました。入水が順調に確保されたのと、厳しい寒さが少し継続したからではないでしょうか。昨年はトユに土囊が乗せられて池の水が枯れる状態があり、非常に心配していましたが、降雨が長く続かない厳しい状況でしたが、水が戻ってきたので産卵が行われたのでしょう。うまく孵化してくれて何匹かが山に帰って生き残って欲しいものです。観察を続けている金田さん、太田さん、根気よくお願いします。

●忙しい中、枯草の焼却処分ができました。

今年は相当な量が集められたのと、定期的に雨が降って乾燥する時間がなく、相当水分が含まれたままで苦労しました。最後のところは広くまき散らし耕運機で処理をしました。1月はこの処理で随分時間がかかりました。里山農園を中心に篠原さんたちは年間12回ものイベントを計画・実施されました。子どもたちとお母さんたちが思い思いの考えから書初めや、そうめん流しなど、楽しい企画と準備を楽しんでこられました。

16日(金)に予定している戸谷嘉之先生は、教職を退職されましたが、ある学校から先生の求職者が出たのでと要請があり、週に4日間出勤されているとお聞きしています。学校現場は厳しい状況だとも説明されていました。このような状況あっても、里山の会の要請なら引き受けていただきました。皆様には是非、ご参加下さるようお願い致します。2月16日(金)13:00~15:00までの予定をしております。場所は京田辺市中央公民館:研修室です。

● 会誌 56 号の原稿第 1 号が精華町の安長さんから送信いただきました。皆さん、どうぞ続いて送って下さい。お待ちしております。

●山村武正氏が歩行中、交通事故ではねられる。

幸いレントゲン検査の結果、骨折箇所はなく打撲傷での負傷でした。2021 年 10 月に脳梗塞を発症し、リハビリとして連日歩行機能回復に努めていましたが、2 月 12 日の夕方、自宅から東小学校までの往復を二本杖で行って、大徳寺東側から旧 307 号線の横断歩道を渡り切れず軽自動車で跳ね飛ばされました。幸いヘルメット付きの帽子をかぶっていたので頭の負傷は回避できたようです。右肩と右手、そして前胸の左の肋骨部分に痛みを感じてレントゲン撮影の結果骨折はなく打撲で張り薬でのシップで救急治療は終わり、帰宅出来ました。パソコン打ちは何とかこなせています。教訓として作業は明日に繰り残さない、“明日はない”と考えて始末して終わることが大切だと思い知らされました。いつ不幸が発生するかもしれませんので、やり残すことは避けなければならないと思いました。対向車が来ていたら命はなくなっていたことは確かだと思います。まさに命拾いをさせていただきました。一日も早く回復して頑張りたいと思っています。

●今年 2023 年度も京田辺市打田での炭焼き体験を行います。

里山農園のクヌギを伐採して久し振りに良い炭を生産できればと用意してきましたが、1 t 500 kgには届きませんでした。木津川出張所に残されていた原木利用の許可を得てようやく一窯分を運び込みました。切り倒したクヌギは 40 cm の直径の太いものでしたので、割機を手掛けてこられる太田さんと斧などを使ってこられている森島さん達の手によって適当な太さに割り揃えていただくことが出来ました。2 月 23 日(金)には原木を炭窯に詰め込み、25 日(日)に着火まで進める予定をしています。

一昔前には七輪で木炭を使って煮焚き物をしたものです。人々の暮らしには無くてはならない燃料として使用されてきたものです。今日では石炭燃料に置き換わって生活様式も変化しています。私たち里山の会は打田薪炭組合が所有されていた炭窯の使用許可をいただいて年間わずかに炭焼き体験を継続し、技術を絶やさないように行ってきました。それぞれ 2023 年度はかなり年を重ねてきましたので、これからどれだけ取り組んでいけるかと心配しながら、今年 2023 年度の取組として炭焼き体験を実行してみたいと思っています。関心のおありの方がおられましたらご参加ください。参加を歓迎いたします。2 月 25 日(日) 9:00~12:30 窯詰めが早く出来たら着火作業に移行いたします。以後釜の温度や排煙の色などを観察して供給空気の調節を行ってころ合いに空気の供給を遮断します。そして 1 週間後、釜の温度が冷えて来た頃に生産された木炭の窯出しを行い、商品化していただけるように箱詰めを行います。

着火してしばらくすると煙突から出てくる煙が冷えると木酢液が取り出されます。これはかなり強い天然の酸性の液ですので防虫に使われています。これは木炭の製造時にのみつくられるもので貴重な薬品ともいわれています。里山の会ではこれまで得てきた液(3 年物)が少々蓄えがあります。500 ml を 500 円でお求めいただいています。数に限界がありますのでご希望の際はご容赦ください。



心の悩みを癒すために里山農園活動をどうかすか

里山農園に心の悩みを持った（不登校の子ども）たちが来る機会が増えてきており、そのような方々に農園での遊びや自然との触れ合いが、効果を生み出していると感じていますが、里山の会の作業員はどのように対応していけば良いか素人同然なので、戸惑いがあります。基本的な対応ができる学習の機会としたいと思っています。現在も学校で子ども達を指導されている先生方から現状をお聞きできる数少ないチャンスで貴重だと思います。

2月16日（金） 13：00～15：00

講師 戸谷嘉久 谷口宗一 元中学教師場所 やましろ里山の会事務所 田辺中央公民館

出席予定者 大村幸正 森島保 播川司 有田勉 福井波恵 太田敏之 山村武正 坂田一郎

岩佐英夫 古川章 篠原真知子



里山農園の丸山 子どもたちが思いっきり遊べる 自然の小山



栽培農園風景



栽培農園風景



栽培農園風景



そうめん流し



オオムラサキ幼虫探し



教育棟掲示板



夜の生き物観察



開墾前の農園風景

主催 特定非営利活動法人やましろ里山の会 fddb@257yahoo.co.jp

事務所 京田辺市田辺深田 15 0774-64-4183